

ネットワーク時代の今を追う
<http://www.wakabayashi.com/internetroad21/>

花ひらく草の根メディア ブログという選択へ

非対称型の戦いと 草の根メディア

必要は発明の母とはよく言ったものである。ブログという発明が進化し花開くのは2001年9月11日の世界貿易センタービル倒壊のあの事件が契機であった。

インターネットが冷戦時代にソ連との核戦争を想定して構築されたコンピュー

タネットワークに端を発することはよく知られた事実である。ブログの場合はどうか。

ブログという草の根メディアの誕生とその可能性について論じているのはダン・ギルモア (Dan Gillmor) である。彼は自らそれまで勤めていた日刊紙を辞めてその名も「草の根メディア会社 (Grassroots Media Inc.)」を設立

した。ギルモアは新しく始まったブログの挑戦を1冊の本にまとめた。原著の題名は "We the Media: Grassroots Journalism by the People, for the People" (2004, O'Reilly) である。邦訳の題名は『ブログ 世界を変える個人メディア』(2005, 朝日新聞社) である。

ギルモアは言う。軍と警察はもともと集権化した組織である。911以後これらの組織は分散化した敵との戦闘いわゆる非対称型の戦いに直面している。そこで、集権化した大規模組織が標的にされている場合には人やデータは分散化しておくべきだというインターネットの原点が再度想起された。

草の根メディアの出番である。

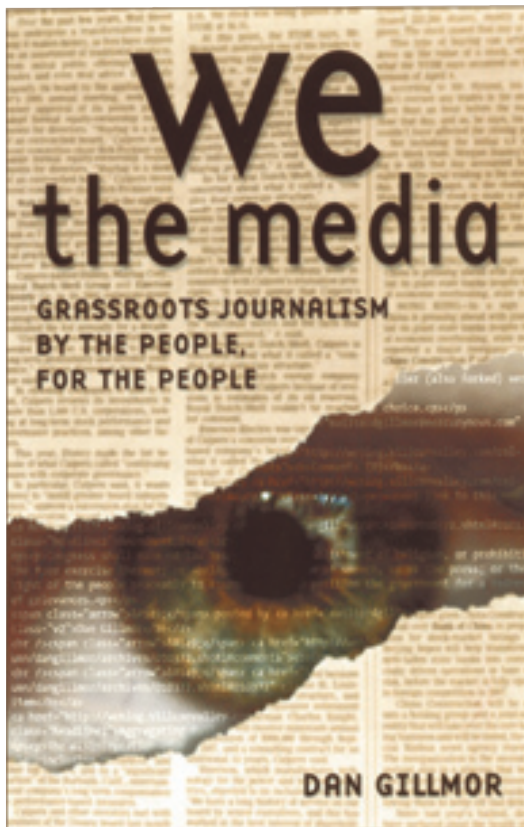
ギルモアはこんな提案を紹介している。アフガニスタンの戦いでは現地のパシュト語の使い手が絶対的に不足している。しかし一方で米国内には数万のパシュト語と英語のバイリンガルの使い手が生活している。現地の兵士は衛星携帯電話を使い、もちろん暗号通信で、これらのパシュト語の使い手を活用すればいい。

米国の研究開発では軍が圧倒的な主導権を握っている。坂村健によれば、米軍の技術戦略は、特に情報通信技術 (ICT) に関して、グローバルスタンダードの考えを大きく転換しつつあるという。力の強い者の一人勝ち、いわゆるデファクトスタンダードが米国流という考えは過去のものとなりつつある。むしろスタンダードをオープン化して複数メーカーの関与により供給を安定化させる方向に舵を取っている。「技術戦略の強化急げ」、日本経済新聞、2006年1月9日)

ギルモアの提唱する方向と坂村の分析はぴったり符合する。国家戦略と草の根が手を携えて進む米国の姿が浮かび上がってくる。

ホームページが 知的対話ツールに進化

そもそもブログとはウェブログ (weB LOG) を略した言葉である。日記風の簡易型ホームページと訳される。更新された記事は自動的に日付順にリストになって表示される。またブログではそれぞれの記事にコメントを書き込めるようにな



(写真.1) "We the Media" の表紙写真
<http://wethemedia.oreilly.com/> より

っており、コメントのリストも自動的に生成される。

トラックバックという仕組みもおもしろい。他人が自分の記事にリンクを張ったとき、リンク元の記事の題名やアドレスが自分あてに送信される。自分のブログにはトラックバックのリストが自動生成される。

ブログリーダーというソフトがいくつも開発されている。このようなリーダーにこんな記事を読みたいという自分の意志を言葉で登録しておくことができる。あとはリーダーが定期的に記事を探ってきて記事リストが表示されるのである。

ホームページがそれぞれ知能を持ち始め、そして互いに対話を始めたと言ってもいいだろう。難しい言語の習得なしに、こうした対話がほとんどおまかせの形で実現できるのがブログの魅力と言えるだろう。

ブログ開設のための道具類はポータルサイトやプロバイダサイトが無償で提供している。ブログに特化したサイトも多数誕生している。ブロガーの数も日本国内で473万人と推定されている(2005年9月末、総務省調べ)。2005年末で中国国内で1600万人という発表があった(サーチエンジンBaidu)。世界では既に6000万人とも言われる。

ギルモアもページをさいて論じているのだが、ブログのマーケティングツールとしての効用ももちろん見逃せない。ブログを賢く活用できれば顧客のケアを通して顔の見えるマーケティングを実現できるわけである。

英国と韓国における対話型メディアの取り組み

ギルモアが注目している草の根メディアのサイトを実際に訪ねてみよう。まずは英国のBBC(英国放送協会)のアイ

関連情報

- ダン・ギルモア著、平和博訳『ブログ 世界を変える個人メディア』(2005、朝日新聞社)
- 市民運動を支援するBBCアクションネットワーク
<<http://www.bbc.co.uk/dna/actionnetwork/>>
- 市民記者が活躍する韓国のオーマイニュース
<<http://www.ohmynews.com/>>
- ニフティのブログサービス
<<http://www.cocolog-nifty.com/>>
- ビッグロブのブログサービス
<<http://webryblog.biglobe.ne.jp/>>
- ヤフー!日本のブログサービス
<<http://blogs.yahoo.co.jp/>>

キャン(ican)に行ってみる。BBCアクションネットワーク(市民行動ネットワーク)がサイトのタイトルだ。あなたの周りから世界を変えてゆこう、というサブタイトルがついている。誕生は2003年の11月である。このサイトは市民運動に役立つ環境の提供を目指している。特に地域の問題に注目する。

実際に利用者登録をしてみる。外国からの登録は特に規制していない。見学はご自由というわけだ。問題の切り口は、犯罪と法、文化・メディア・スポーツ、民主主義と政治、教育と訓練、環境と計画、食糧・農業・家畜、健康、国際問題、お金・商売・仕事、科学・技術・技術革新、社会と福祉、交通、諸権利、などの分類の下にさらに下位の分類ないしは個別の主題が並んでいる。

それぞれの主題のところで、これから市民を組織化して運動を始める選択肢が用意されている。既に取り組みが始まっている運動体のリストも並んでいる。もちろん意見のみ表明することもできる。サイト全体が市民運動の受け皿になっているのだ。問題によりBBCの記者の取材記事や論説も用意されている。そこでは記者と市民との討論が行われる仕組みだ。

一方韓国には市民記者のネットワーク構築という野心的なサイトがある。サイト名はオーマイニュース(ohmynews.com)である。大統領選挙にも影響力があるという今や名門サイトである。2000年創業、創設者はオヨン



(写真.2) BBCアクションネットワークの紹介ビデオ
<<http://www.bbc.co.uk/dna/actionnetwork/>>より

ホである。ハングル版が生き生きとしていておもしろそうだが残念ながら歯が立たない。そこでとりあえず英語を使用している国際版で様子を見てみる。

こちらも読者登録はすぐできる。ただし記者登録のためには事前に自分の書いた記事を送って審査を受ける必要がある。市民記者による毎日200本程度の投稿のうち70%が採用される。かなり高い採用率だ。これも紙面に制限のないウェブだからできることだ。香港からのWTOの取材原稿がトップ記事だ(2006年1月9日号)。現地からの写真も豊富だ。市民参加を可能にしたのはデジタルカメラとインターネットである。大手メディアが取り上げないニュースを重視して差別化をはかるしたたかな戦略だ。

対話の文化と日本

草の根の基礎にはいつも対話の文化がある。日本のサイトにもどってきたとき対話文化の欠乏に気がつく。大手メディアで対話型を採用しているところはない。国際的には言語の問題がある。韓国の朝鮮日報、中国の人民日報、いずれもネットで豊富な日本語サービスを提供している。相手の言語の使用は相手の文化の尊重を意味する。そこから対話が始まる。残念ながら日本のメディアにはこれに対応するサービスが存在しない。

今回はブログをめぐる日本の状況を中心に探ってみたい。

(わかばやし・いっぺい)